

越前式石廟の形式と地方進出について

三井紀生

まえがき

神社や寺院あるいは路傍で石造りの覆屋を見かけることが多々あるが、それぞれは石材の生産地が生んだ地方独特の意匠で造られている。若狭の日引村（現福井県高浜町日引）に産した日引石は、中世から日本海沿岸の西は対馬周辺まで移出されていることが報告されており、採掘地（今は採掘されていないが）でも時代の新旧はあるものの独自の意匠による中・小形の石造り覆屋がのこされている。出雲に産する来待石は狛犬や石灯籠で知られるが、出雲とその近郊地方の寺院では出雲独特の五輪塔や宝篋印塔を納めた覆屋も見られる。

越前では笏谷石を使用し、寺院建築様式をとりいれ、各所に華麗な荘厳を施した他に例のない越前独特の覆屋（「石龕」、「石廟」）が創られた。¹ これらを越前式石龕および越前式石廟と呼んでいる。本稿は石龕についても簡単に触れるが石廟に重点をおいてその種類、

特徴および各地への進出状況を整理した。

一 越前式石廟の種類・構造と荘厳形式

越前式石廟はその構造に寺院建築様式をとりいれ、内外壁に仏像や仏教絵画を基とした荘厳彫刻や描画が施され、高位の人々の墓碑を安置する霊屋として造られた。

（一）種類と構造

越前式石廟は屋根の形状で分類すると次の種類がある。

（1）**宝形造り** 方形平面構造の屋根。四方の形状は二等辺三角形で頂点に露盤・伏鉢・宝珠を載せている。これまでに極楽寺（小浜市）に一基の所在を知る。

（2）**入母屋造り** 小形の石龕に見られ、石廟への利用は少ない。小形の場合屋根は一石調製だが、大形になると複雑で、多

種類の部材を必要とする。小形では正覚寺の超岳院廟（越前市）、大形では高野山の浄光院廟（和歌山県）がある。

(3) 切妻造り 越前式石廟はこの形式がもつとも多いが、次の二種類がある。

切妻造り 妻入りの場合。棟桁と左右に軒桁（大形廟の場合には中間桁も）を配置（主に木材）し、両妻側に梁を置いて棟桁を斗や幕股などで支える寺院建築様式を採用している。屋根は目板付に石板を加工して組合せて（板葺）葺き（石瓦葺きや鍔葺きもある）、尾根に大棟石（以下「棟石」）を載せる。桁、梁、束、妻壁、羽目板、屋根板など多種類の部材を必要とする。妻入りの使用が多い。

照り屋根型切妻造り 平入り方向から見て、前屋根と後屋根をそれぞれ一石で造り、廟本体周りの側板の上へ組合せ、尾根の合せ面の上に棟石を載せる。材料の歩留まりは悪いが、前後の屋根二点のみのため組立ては容易である。平入りの使用が多い。

棟石の先に石鬼や鬼板が配置されるものもある。

(4) その他 越前式多宝塔の初重笠と饅頭型を組合せたような形状の屋根上に宝珠を載せた屋根や向唐門型の特殊な造りの屋根も見られる。

(二) 荘厳形式

越前式石廟の荘厳個所と荘厳形式の種類は概ね次の通りである。

(1) 外側の荘厳

- ・ 妻壁と軒周り 飛天、日輪・月輪・飛雲、蓮華・牡丹の花葉、植物の葉、種子
- ・ 扉の表裏 蓮華花葉と水流、題目、天蓋・瓔珞、種子・月輪・蓮華座、植物紋
- ・ 梁 虹梁、蓮花、唐草文様
- ・ 外壁（前面扉の左右） 仏像（毘沙門天、不動明王、地藏などの菩薩）

・ 外壁（左右側面・後面） 仏像（阿弥陀如来と二十五菩薩）、卒塔婆型四十九院、蓮華花葉と水流

・ 基礎周り 格狭間、紋、唐草文様、蓮花

(2) 内側の荘厳

・ 内壁 仏像、蓮華花葉の彩色絵画、卒塔婆型四十九院

(3) 屋根部分の荘厳

・ 棟 棟石の先端に石鬼または家紋、側面に家紋

本稿末に「資料1 越前式荘厳例一覽」（写真集）を添付し、ここに写真を掲載した荘厳は本文の中では「資料1」と記述した。

二 各地にのこる越前式石龕と石廟の概要

次に各地にのこる代表的な石龕・石廟の概要を紹介するが、以外

の遺品も含めて参考寸法や中に安置されている墓碑の種類と特徴、銘文などを記した資料〔資料3 各地の石龕と石廟の目録〕を本稿末に添付した。

(一) 石龕

越前の平野部の神社や寺院において、笏谷石の小形の石龕をよく見かける。石龕の主たる形式は、神社建築様式に多い照屋根型の切妻造りや流造り、寺院建築様式に多い入母屋造りの二種類がある。正面に太陽や月を象徴する円や三日月が彫られ、内部には主に神像や仏像が安置（おもに内壁に彫刻）されている。また、屋根に石鬼を配置しているものも多い。神仏習合時代の名残を感じさせる。小形の石龕は、主に十六世紀以降の紀年銘を有するものが今も越前の平野部の神社に見られるが、この種の石龕の発祥時期は十五世紀後半期頃から十六世紀初め頃と推定している。

日吉神社の石龕（福井市重立町） 紀年銘が刻まれている石龕は少ないが、弘治二年（一五五六）年銘を有するこの石龕は一間流造り形式、入り口に向拝を有する構造である。現状の在銘石龕の中では大形である。最古である。屋根に石鬼が配置され、内部に石仏を安置している。

越戸峠の石龕（勝山市野向町） 照り屋根型切妻造り平入り構造、両開きの扉は失っている。開口部真下左右に狛犬または獅子の像を浮き彫りしている。前面右端の柱に永祿四年（一五六二）を刻む。内部に地藏を安



越戸峠の石龕

置している。

神明社の石龕（鯖江市） 文禄二年（一五九三）銘の納符石龕と説明している。前・後面は三枚、左右側面は二枚の板石で構成し、前面左上に月輪（三日月）、右上に日輪を彫っている。屋根は越前多宝塔に見ような初重笠と饅頭型に似たかたちを造り、その上に請花と宝珠を載せた特殊な形状をしている。この種の石龕としては唯一の遺品である。



神明社の石龕

岡西光寺の石龕（福井市次郎丸町） 屋根にユニークな顔の石鬼を配し、内壁に石仏を安置した小さな石龕がある。向かって右側面に文字が彫られているが、風化しているため紀年銘は確認できない。周辺に点在している板碑、石仏および五輪塔などは永正、大永および天文の銘を有するものが多く、この石龕も朝倉時代に造立されたものと思われる。

称念寺の石龕（坂井市丸岡町） 新田義貞の墓所を守る時宗の寺院である。境内に十六世紀中期の石龕の屋根や石仏が浮き彫りされた側壁や奥壁が所在するが、これらの中に天文十八年（一五四九）銘の残欠が遺存していた。



岡西光寺の石龕

(二) 石廟

十六世紀の銘を残す石廟の数は少ない上、この時代の石廟には莊嚴は見られないか、莊嚴が施されていても質素なものである。そして十七世紀初めから中頃にかけて、華麗な莊嚴が施された大・中形の石廟が造立されるようになり、藩主とその家族や高位の武家の墓碑（宝篋印塔や五輪塔など）を安置する「霊屋」として使用され、高野山、京都、近江、加賀、能登、越中、越後および遠くは蝦夷松前まで進出している。この種の石廟は、これまでに五十廟ほど調査したが発祥の地である越前に少なく、以外の地方に多くのこざれていることもわかった。以下に代表的な石廟の概要を紹介する。

(1) 越前・若狭にのこる石廟

極楽寺の石廟（小浜市） 当寺は天台

真盛宗の真盛の弟子真明（『真盛上人往生伝記』に名前が見える）の開

山。石廟は真明没後七回忌に当たる天文二十一年（一五五二）に造立されたもので、現存の紀年銘を有する筈



極楽寺の石廟

谷石製の石廟では最古銘を有し、かつ宝形（方形）造りはこの一基だけである。前面の扉は遺失、内外壁に特別の莊嚴は見られない。石廟内には「圓戒國師」と彫る真盛の五輪塔の地輪を中心に七基の一石五輪塔を納めているが、真明の碑の所在は不明である。

滝谷寺開山堂（坂井市三国町） 周囲に柵状の四十九院がめぐらされ、石廟は切妻造平入り構造で、屋根は目板付に加工した石板を

組み合わせて葺き、尾根に四分割の棟石を載せる。内部左右と奥壁に十三仏（資料1）を浮き彫りし、開山睿憲（応永二十七年（一四二〇）銘）、四世頼住（延徳三年（一四九二）銘）の坐像と墓が安置されている。

この石廟は両僧の像を保存するために、河口庄の豪族堀江氏によって元龜三年（一五七二）に建立された。

善導寺の石廟（大野市） 結城秀康

に殉死した土屋左馬助正明の石廟で、越前式宝篋印塔（慶長十三年（一六〇八）銘）を安置している。照り屋根型切妻造り平入り構造で造られ、右軒下に飛天、前面開口部（扉は遺失）の左右壁に蓮華の花葉（資料1）を陰刻している。

正覚寺の石廟（越前市） 福井藩の重

臣本多富正の養子となった結城秀康四男吉松（超岳院）の石廟。入母屋造り妻入り構造、廟の内部は彩色の蓮華花葉（資料1）が描かれ、越前式莊嚴に金泥が塗布された宝篋



滝谷寺の石廟



善導寺の石廟



正覚寺の石廟

印塔（慶長十四年（一六〇九）銘）を安置している。

朝倉氏屋敷跡の石廟（福井市） 天正元年（一五七三）、織田信長との戦いで戦死（自害）した朝倉義景の石廟である。朝倉氏屋敷跡南西の山裾にあり、石廟背面に寛文三年（一六六三）銘を刻む。屋根は一石調製、前後に唐破風を有し、現存の朝倉氏屋敷入口の向唐門（屋敷跡に建てられた寺院心月寺末松雲院の山門の屋根）が同じ造りになっている。尾根上の棟石の両端に鬼板を配し、葺甲の加工が施され、破風中央に一個の茨も見える重厚なデザインである。破風の下には朝倉家の家紋「三つ盛木瓜」を彫っている。この屋敷跡だからこそ見ることができない他例のない独特の屋根の石廟で、中に義景の越前式宝篋印塔（天正元年（一五七三）銘）を安置している。



朝倉氏屋敷跡の石廟

（2）越前から移出された石廟

高野山の松平家石廟（和歌山県高野町） 奥の院に越前松平家の石廟（長勝院（結城秀康母於万の方）廟と浄光院（結城秀康）廟）が所在する。

長勝院廟 この石廟は、秀康が慶長九年（一六〇四）に建立した母長勝院の逆修廟（柱に刻銘あり）で、長勝院は元和六年（一六二〇）に死去した。切妻造り妻入り構造、屋根は石瓦葺き、棟桁は斗と幕股で受け、棟桁と軒桁の間に中間桁を配置している。幕股の下には五七の桐紋、左右は飛雲にのる日輪と月輪、前面の両開き戸

の長押上の中央小間には薬研彫りの阿弥陀如来の種子「キリク」を納めた月輪と蓮華座を、その月輪左右に蓮花を浮彫りしている。扉の左右には毘沙門天と不動明王立像、この両像の真上の小間に飛天を彫る。両側面と背面の壁面には阿弥陀如来と菩薩が彫られている。即ち、左右側面壁は各八体の菩薩、背面は中央に阿弥陀如来を置き、左右にそれぞれ四体の菩薩（菩薩像は全体で二十四体）を彫る（資料1）。石廟内には長勝院の宝篋印塔のほかに宝篋印塔と五輪塔を各一基安置している。

この石廟は外壁に阿弥陀如来と二十四菩薩像が刻まれている最旧紀年銘を有する越前式石廟で、この廟が野田山（金沢市）や瑞龍寺（高岡市）にのこる前田家の同類の石廟のモデルになったと思われる。

浄光院廟 現存する越前式石

廟の中では最大規模の廟である。入母屋造り平入り構造で入口は破風造り、屋根は石瓦葺き、廟部周りに回廊を配した豪華な石廟である。唐破風部分は屋根も含めて一石で造られており、向拝の柱の頭部は「出三斗」とよばれる斗拱を構成し、柱前面には種子「カンマン（不動明王）」と「ウーン（愛染明王）」を薬研彫している。正面の開き扉真上の小間中央には胎蔵界の大日如来の種子「アーンク」を納めた月輪と蓮華座をおき、月輪左右には蓮花を浮彫りしている。扉の左右は不動明王と二童子および毘沙門天像（資



松平家墓所の長勝院石廟

料¹）、長押の左右端の上側の小間に種子、下側の小間に蓮華花葉と唐草の組合せ文様を彫る。左右と背面の外壁は長勝院廟と同様阿弥陀如来と二十四菩薩を彫る（資料¹）。

前面の柱には建立者松平忠直銘、背面に当時の掛りの十三人の名（年寄衆今村大炊、本多伊豆守ほか七名、奉行由木平左衛門ほか二名、石大工與左衛門）が刻まれている。

内壁は梵字と四十九院名が彫られ、陰刻文字部分は金箔押し、中央墓碑（浄光院の宝篋印塔）の天井は天蓋を彩色、その他壁にも飛雲、牡丹など彩色描画が施されており、ここに浄光院の宝篋印塔（慶長十二年（一六〇七）銘）のほかにも四基の宝篋印塔（浄光院塔も含め、五基はいずれも和泉石が使用され、金泥が塗布されている）が納められている²。

四十九院の石柱が囲むこの二廟は、現存する越前式石廟の中で最高の贅を尽くしており、石造物に寺院建築様式と経典や仏画に見る思想を融合させて造形された笏谷石造物の頂点に立ち、以降の越前式石廟の原点になる遺品と言えるだろう。

本満寺の石廟（京都市寺町） 結城秀康の室であった蓮乗院の石廟（越前式宝篋印塔を安置）である。切妻造り平入り構造、棟桁は斗と幕股で受け、幕股内に白色の牡丹、左右に彩色された飛天を



松平家墓所の浄光院石廟

三井 越前式石廟の形式と地方進出について

彫る（資料¹）。内部に厚肉の六体の仏像を彫り、間をぬって蓮華花葉も描かれた彩色豊かな石廟である（資料¹）。基礎前面の羽目板には格狭間も陰刻（資料¹）している。蓮乗院は秀康逝後烏丸光広に再嫁し、元和七年（一六二二）死去した。

春光院の石廟（京都市花園区） 春光院は妙心寺の塔頭で堀尾吉晴が建立した寺院である。

堀尾吉晴の父泰晴・天徳寺（慶長四年（一五九九）没）と母龍翔院（慶長十二年（一六〇七）没）の出雲石製宝篋印塔を納めている。石廟は照り屋根型の切妻造り平入り構造で、右扉に上から天蓋

と環珞、月輪内に葉研彫の種子「キリク」、蓮華座を彫り、左扉は上に日輪と飛雲、下に蓮華花葉と水流を彫る（資料¹）。両側面と背面は卒塔婆型四十九院を陰刻（資料¹）している。

石廟の内壁または外壁に四十九院を彫刻している例は高野山にある結城秀康廟に見られるが、安来市広瀬町に遺存する親子観音（宝篋印塔）（慶長十三年（一六〇八）銘³）や松江市玉湯町報恩寺の推定堀尾民部の宝篋印塔（元和六年（一六二〇）銘⁴）は来待石



春光院の石廟



本満寺の石廟

の石廟に安置しているが、両石廟は外壁側面に卒塔婆型の四十九院を陰刻している。廟の内壁または外壁に四十九院を彫刻している越前式石廟の例は、本廟や高野山の長勝院廟、結城秀康廟のほかには松前家の歴代藩主の石廟の中にも数例見られる。

清滝寺の石廟（米原市） 佐々木京極

家の菩提寺で、歴代の墓に混じって若狭小浜藩主であった京極高次の石廟がある。切妻造り妻入り構造、墓股の左右に日と月、虹梁の真下に飛天像（資料1）、扉の左右に毘沙門天と不動明王の浮き彫り像を配した越前石廟の典型である。中に越前式宝篋印塔（慶長十四年



清滝寺の石廟

（二六〇九）銘）を安置している。

幡岳寺の石廟（高島市マキノ町） この寺は、柴田勝家の甥安政が勝家、お市方、兄佐久間盛政の菩提を弔うために建立した曹洞宗の寺院で、勝家の院号を寺号としている。

寺の裏の墓地に安政の弟で越前勝山城主を務めた勝安の次男柴田帯刀勝次の墓（越前式宝篋印塔）を安置した越前式石廟が遺されている。結城秀康給帳に「二千石 尾張国 柴田帯刀」とあり、また『国事叢記』



幡岳寺の石廟

に大坂の夏・冬の陣に参加していることを記している。石廟は照り屋根切妻造り平入り構造をとり、外観は質素で特に荘厳はなく、内部は背面に合掌姿の勢至菩薩と蓮台を持つ観音菩薩立像を浮き彫り（資料1）にしている。安置されている越前式宝篋印塔の銘文は、帯刀の法名「宗叟善智大禅定門」と「八月廿一日」は確認、年号部分は「元和五年」と読めそうだが判読は困難である（寺で過去帳を見せていただいたが年号の記述はなかった）。近江地方では数少ない越前式石廟の一として貴重である。

野田山墓地の石廟（金沢市） 前田利家の子女ほか重臣の八基の石廟（うち一基は後日更されたもの）が遺存するが大別して三種類あり、各々代表的な石廟について述べる。

春桂院廟 前田利家長女幸（前田

長種室）の石廟。切妻造り妻入り構造をとり、棟桁は斗と墓股で受け、その左右に飛雲を従えた日輪と月輪を、扉の右側に不動明王、左側に毘沙門天を彫る。墓は越前式宝篋印塔（元和二年（一六一六）



野田山の春桂院石廟

銘）を安置している。本廟と類似の廟として、江月院（前田利貞）廟、清雲院（奥村栄明）廟、接巖院（村井長家室）廟がある。

春香院廟 前田利家七女千世（村井長次室）の石廟。切妻造り妻入り構造は春桂院廟と同じであるが、墓股の下に植物葉を彫刻、その左右に飛天（資料1）、扉の右側に不動明王、左側に毘沙門

天を彫る。またこの二像の上方にそれぞれ二体、左右の外壁にそれぞれ八体（資料1）、背面の内壁に二体、合計二十二体の楽器や幡を持った菩薩像を彫っている。扉の内側には蓮華花葉と水流を彫り蓮花部分には朱が塗られている

（資料1）。当墓地唯一の豪華な石廟である。墓は越前式宝篋印塔（寛永十八年（一六四二）銘）を安置している。

瑞祥院・瑞雲院廟 前田家の重臣中川光重と同室（前田利家次女蕭）の石廟。当墓地では数少ない照り屋根型切妻造り妻入り構造の石廟、開き戸（遺失）上の斗と束の左右に飛雲にのる日輪と月輪を彫り、扉左右の壁に地藏立像を彫る。墓は二基の越前式宝篋印塔、



同所 瑞祥院・瑞雲院石廟



同所 春香院石廟

瑞祥院（慶長十九年（一六一四）銘、瑞雲院（慶長八年（一六〇三）銘）を安置している。二基の宝篋印塔に彫る字体は同一故、石廟は光重没後に造立されたものと思われる。類似の石廟として、一陽院（村井長次）廟（慶長十八年（一六一三）銘）がある。

野田山御廟絵図⁶によると、野田山墓地には以上のほかに四基（高德院〈前田利家〉、芳春院〈利家室松〉、瑞龍院〈前田利長〉、玉泉院〈利長室永〉）の越前式石廟が所在していた。明治になって

前田家が仏教から神道に改めた際撤去されたという。またこれらの石廟図⁷がのこされており、この図面によると、高德院廟は照り屋根型切妻造妻入りで、先の慶長の紀年銘を有する瑞祥院・瑞雲院廟、一陽院廟と同じ構造である。

芳春院廟は切妻造妻入り、棟石は墓股で受け、扉左右に地藏と不動明王を彫っている。この構造と荘厳は春桂院の石廟と類似である。

瑞龍院と玉泉院の廟は、玉泉院廟の方がより大形と思われるが、基礎部分の羽目板に格狭間、屋根は切妻造妻入り、棟桁は墓股で受けている。扉左右に毘沙門天と不動明王を彫り、側面に「十六羅漢」と文字で記述している⁸。墓股の下に植物葉を彫る。

さらに石廟図によると、玉泉院廟の扉（左右とも）には上に「地藏」、下に「蓮花」と記述されている。瑞龍院と玉泉院の廟は、先の春香院廟のような華麗な石廟であったと思われる。

なお、野田山墓地の初期の石廟は照り屋根型切妻造妻入りであったようだ。

慈雲寺の石廟（金沢市） 前田利家の重臣富田景政創建による富田一族の菩提寺である。この墓地に四基の越前式石廟、慈雲院（富田家四代重政）、了瑞院（五代重康）、慈照院（重政女・奥村栄政室）、照光院（奥村栄政女）廟がのこされている。いずれも照り屋根型切



慈雲寺の慈照院石廟

妻造り平入り構造である。類型の石廟のためこの中から慈照院廟について述べる。

慈照院廟 前面屋根の軒中央に束と幕股を配しその左右に二体の飛天（資料1）、前面扉の左右の壁に蓮華花葉と水流、扉は表側に蓮華花葉、裏側に題目、最下部の羽目板に二個の格狭間（資料1）を彫る。廟の内部は蓮華花葉が描かれ、葉の緑色が鮮やかに遺されている（資料1）。墓は越前式宝篋印塔（正保三年（一六四六）銘）一基を安置している。

隣接する照光院廟は外壁左側面一面に蓮華花葉を陰刻（資料1）している。

長齡寺の石廟（七尾市） 前田利家父母の菩提寺、ここに利家と利長の二基の宝篋印塔を安置した石廟（照り屋根型切妻造り平入り構造）がある。軒に前田家の梅鉢の紋を浮き彫りにし、最下部に位置する



長齡寺の石廟

羽目石に格狭間を彫る。前扉は破損して外されているが、ダイナミックな蓮華花葉（資料1）を彫っている。

瑞龍寺の石廟（高岡市） 前田利長の菩提寺であるが、ここに利長（瑞龍院）の石廟と彼にゆかりある四人（高德院（前田利家）、総見院（織田信長）、正覚院（信長側室）、大雲院（織田信忠））の石廟をのこしている。

高德院・総見院・正覚院・大雲院廟 いずれも切妻造り妻入り構

造で、次の点が共通している。構造は、棟桁（木製）と軒桁の中間に外部からは見えないがもう一本の木製の桁を渡している。後面の妻部分は棟桁を斗、束、板幕股で受けて梁に渡し、妻部、扉、内外壁とも特別な荘嚴のない簡素な造りである。寸法は正覚院廟だけは小形であるが、他の三廟は幅、奥行き、高さがほぼ同じである。

それぞれの石廟に安置されている越前式宝篋印塔は、基礎に刻む堅連子と格狭間、塔身に刻む小蓮弁や蓮華座の意匠と線彫りの造形方法は類似、かつ基礎に彫る銘文の字体も判読不能の正覚院塔を除いて似ている。

四廟に関して『越中國高岡山瑞龍記』（寛政十一年（一七九九）富田景周著）によれば「癸丑春（慶長十八）、立國祖織田右府其令眷其の世子信忠君之廟城側、護溝ニ一香刹、号法圓寺、以廣山和尚為開祖。（以下略）」⁹とあり、一方で高德院（利家）廟の先行造立説もあるが、宝篋印塔の類似性も鑑み、四廟は同時の造立で時期は慶長十八年（一六二三）としておきたい。

瑞龍院廟 この石廟だけが華麗な荘嚴を取り入れている。棟桁は斗と幕股で受けて梁へ渡し、幕股の内側に牡丹の花葉、左右に飛天像、梁下の束左右の羽目板に蓮花と唐草模様を彫る。扉の左右壁は毘沙門天と不動明王、外壁背面は阿弥陀如来と八体の菩薩、左右側面もそれぞれ八体を彫り来迎の思想で荘嚴されている（資料1）。中に越前式宝篋印塔（慶長十九年（一六四四）銘）を安置している。

筆者が知る現存する石廟において阿弥陀如来と菩薩の来迎像を彫刻している例は、前述の高野山に所在の松平家の二石廟、野田山の春香院廟と本廟だけである。

大安寺の石廟（佐渡市） 慶長十六年（一六一一）の紀年銘を刻む大久保長安の逆修塔（越前式宝篋印塔）を納めた石廟である。切妻造り平入り構造で、後部内面に地蔵と観音の立像を浮き彫りしている。劣化が進み、現状は別質の石板により両側面が補修されている。長安は慶長十八年（一六一三）に死去した。

光善寺の石廟（松前町） 何基かの石廟が所在していたと思われるが、完全な姿でのこされているものは見られない。部分的に欠落があるが、元の姿がわかる二廟を挙げる。
清久の石廟 照り屋根型切妻造り平入り構造の石廟。扉の上の小間に二体の飛天、下部の羽目

三井 越前式石廟の形式と地方進出について



大安寺の石廟



瑞龍寺の石廟（右が瑞龍院廟）

板に蓮花を陰刻している。破損が進み前後の屋根は落下、前面左右の開き戸もはずれて廟のまわりに所在する。収納されている越前式宝篋印塔は寛永十七年（一六四〇）銘を刻み、松前地方に遺存する越前式石廟では現状最旧紀年銘と思われる。

根菅妙善の石廟 切妻造り妻入り構造の石廟である。しかし屋根部分を失い、前方の妻壁部分と棟および左右の桁、収蔵されていた一石五輪塔（寛文四年（一六六四）銘）をのこしている。前面の長押上の束を挟んだ左右の小間に飛天を彫る。

旧寿養寺墓地の石廟（松前町） 法源寺の参道右の一段高い部分に旧寿養寺墓地がある。寺は明治の頃手塩町へ移転し、墓地は法幢寺が管理している。この墓地に松前藩の家老を務めた蠣崎家の墓があり越前式石廟三廟を遺している。切妻造り妻入り二廟、照り屋根型切妻造り平入り一廟であるが、照り屋根型は倒壊している。切妻造り妻入りの二廟は同じ仕様なのでここでは一廟のみを留めおくことにする。



寿養寺の石廟（右が樹林院廟）



光善寺の清久石廟

樹林院廟 この廟も倒壊寸前である。棟桁は墓股で受け、唐草文様を彫った虹梁の下に二体の飛天を彫る（資料1）。内壁には仏像を彫る。墓は五輪塔で明暦四年（一六五八）銘を刻む。松前藩家老蠣崎友広の廟である。

法源寺の石廟（松前町） 照り屋根型切妻造り平入り構造の石廟二廟が遺存する。いずれも開き戸を失い、廟の周りに荘厳は見られない。二廟は五輪塔を安置し、内一基に正保二年（一六四五）を確認した。

法幢寺の石廟（松前町） 当寺には松前家の墓所があり、歴代当主と夫人の石廟が二十四廟所在し、十一廟が笏谷石製、うち十廟が切妻造り妻入り、一廟が照り屋根型切妻造り平入り構造である。いずれも五輪塔を安置し、寛永十八年（一六四二）から明和二年（一七六五）の百二十四年間にわたっている。明和年間以降の石廟は、全て花崗岩を使用し、石廟の形式は越前式石廟を倣った切妻造り妻入り構造が基本になっている。

公広院廟 松前藩三代藩主松前公廣の石廟。切妻造り妻入り構造で、妻部分は斗、束、笈形、墓股を組合せ、梁の下の中央束



松前家墓所の越前式石廟

左右の小間に飛天を彫る（資料1）。内壁には卒塔婆型の四十九院を陰刻し、五輪塔（寛永十八年（一六四二）銘）を安置している。

その他の石廟 松前家墓所以外の墓地にも越前式石廟が所在していた。すでに倒壊してバラバラになっているが、内壁に六地藏立像を彫る側壁板（資料1）など廟内に収蔵されていた越前式宝篋印塔の残欠品と共に遺存している。

三 越前式石廟の被葬者と所在統計

前節で各地に遺存する主な越前式石廟について述べたが、寺院建築構造を取入れ、仏教思想にもとづく華麗な荘厳を施した石廟に被葬される者は限定されており、一般の人を対象にしたものではなかったことがわかる。

以上の越前式石廟を整理すると、高野山に結城秀康と母長勝院廟が建立され、京都では結城秀康室蓮乘院廟（寺町 本満寺）や堀尾吉晴父母の廟（花園区 春光院）、近江では京極高次廟（米原市 清滝寺）や柴田帯刀廟（高島市 幡岳寺）などいずれも越前にゆかりのある人々で、かつ領主や上位の武家の廟である。

そして以外なことに石廟発祥の地越前では少なく、きわだった石廟



同所 公広院石廟

としては秀康に殉死した土屋左馬助廟（大野市 善導寺）、秀康四男で本多富正の養子になった本多吉松廟（越前市 正覚寺）、福井藩四代藩主松平光通の造立とされる朝倉義景廟（福井市 一乗谷朝倉氏屋敷跡）ぐらいしか所在しない。

加賀・能登には多くの越前式石廟が所在するが、前田家の当主と家族および加賀八家と呼ばれる大名クラスの重臣とその家族の廟がほとんどを占めている。

野田山墓地（金沢市）は前田家および家臣の墓所に八廟（明治初年までは十二廟所在していた）、前田家の菩提寺宝円寺（金沢市）に二廟、前田家の重臣であった富田家の菩提寺慈雲寺（同）に四廟、妙成寺（羽咋市）に前田利常の母と女の二廟（近年両廟は更新され基礎が再使用されている）、長齢寺（七尾市）に前田利家と利長の宝篋印塔二基を安置した一廟が所在する。

越中は前田利長の菩提寺である瑞龍寺（高岡市）に五廟（前田利家・利長、織田信長と側室、信忠）がのこされている。

佐渡は佐渡奉行を務めた大久保長安の逆修廟が大安寺（相川町）にのこされている。

北海道は松前町に集中している、松前家の墓所に所在する十一廟については広く知られるようになったが、以外にも旧寿養寺の蠣崎家墓地に家老を務めた蠣崎友広廟ほか二廟、法源寺の蠣崎波響墓所などに二廟、光善寺にも二廟など、そのほかにも法幢寺や万福寺墓地に石仏を彫った壁板のような残欠遺品が散見され、松前の所在数は多い。

そして、この石廟の越前から各地への進出時期を統計的に見ると

三井 越前式石廟の形式と地方進出について

（本稿末資料2参照）、松前家墓所のように十八世紀中期まで継続して移出された特別のケースもあるが、一般には越前から各地への進出は十七世紀初期に始まり寛文年間を過ぎると途絶えている。

主だった大形の越前式石廟を中心に考察したが、これら以外に照り屋根型切妻造りの中・小形石廟が中位の武家や大庄屋・肝煎り、豪商といわれていた上級の商人などの間で広く使用されていたようである。越前では性海寺（三国町）にある森田家墓地、宝円寺や金剛院（越前市）の本多家墓地、永賞寺（敦賀市）の奥富家墓地、西福寺墓地（敦賀市）などで拝見したが、越前外の寺院でも大日寺（むつ市）、蚶満寺（にかほ市）、妙成寺（羽咋市）など広範囲な地方で見かける石廟である。

中・小形の石廟は、大形の石廟のように華麗な荘厳を施されているものはほとんど無く、また宝篋印塔や五輪塔を一基（稀に二基）だけ安置するのではなく、小形の宝篋印塔や一石五輪塔などを数基安置する合葬石廟が多いことを特記しておきたい。

あとがき

越前式石廟は笏谷石の持つ特質を最大限に生かし、これに寺院建築構造や仏像、仏教絵画および經典を素材とした彫刻による独特の荘厳形式を取入れており、材料・技能・創意が集大成された石造物という感が強い。はじめて笏谷石造物の凄さを感じたのは、福井市の中心にある足羽山の四世紀頃の小山谷古墳から出土した石棺（東

京国立博物館所蔵)を見た時である。蓋の表面に八個の鏡を薄い浮彫りにした荘厳が施され、身の底に埋葬者の頭を固定させるための挿鉢状の窪みを持つ枕と首筋を固定するための細工を施した斬新な意匠・造形に加え、身と蓋の合わせ面は凹凸がなく非常に滑らかに加工され、かつ水の進入を防止するため印籠加工まで施してあった。

この創造力・技術・技能は後の石造物づくりに受け継がれ、十三世紀には月輪周縁や石塔基礎側面を荘厳する独特の荘厳形式を生み、朝倉時代には多くの優しい表情の仏を創造している。越前式石廟に施されている荘厳もある時突然生まれたものではなく、笏谷石の利用の歴史のなかで磨きあがられてきたものの組合せである。建築構造に斗・墓股・虹梁などが取り入れられ、荘厳は軒の部分から見下ろす天女、その周りを飾る牡丹の花葉、扉の左右で墓を守護する不動明王や毘沙門天、あるいは来迎姿の阿弥陀如来に楽器や幡を持つて従う菩薩像の姿や優しい表情を見ると、笏谷石の利用の過程において仏教文化を集結した歴史の奥深さを感じるのである。

註

(1) 各種の文献を見ると、石造りの覆屋は、石屋形、石堂、石殿、石祠、石龕、石廟などいろいろな呼称がある。各地に所在しているものは、収蔵対象が神仏像か墓碑が大方を占めている。よって諸氏のご意見はあるだろうが、筆者は経典や神仏を収蔵しているものを「石龕」、墓碑を収蔵しているものを「石廟」と区分しており、本稿もこの区分に準じている。

(2) 松平文庫一四九九号「天保十三年壬寅年 紀州高野山 御石塔略絵図 御石筆部屋」(福井県立図書館保管)

(3) 樋口英行「来待石製石龕の成立と展開―江戸時代前半を中心に―」(『来待ストーン研究六』来待ストーンミュージアム、二〇〇五年)

(4) 西尾克巳・稲田信・樋口英行「玉湯・宝恩寺の石塔群」(同前)







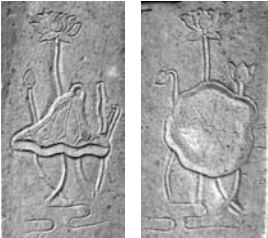
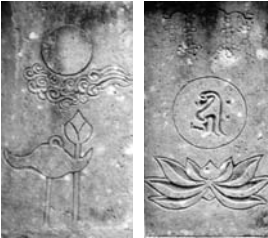

(5) 田川清介編『国事叢記』全十六冊、弘化三年頃完成。慶長十九、元和元年の項に柴田帯刀の大坂の陣参戦の記述がある(『国事叢記 上』福井県立図書館・福井県郷土誌懇談会、一九六一年)

(6) 「野田山御廟所惣絵図并御廟所絵図囊」成巽閣蔵(『野田山・加賀藩主前田家墓所調査報告書』金沢市、二〇〇八年)

(7) (6)に同じ

(8) 「十六羅漢」の記述について、筆者は春香院廟のように側面にそれぞれ八体の菩薩像(側面合計十六体)が彫られていたのではないだろうかとも推定している。

(9) 京田良志「高岡山瑞龍寺の草創―寛永以前在銘の石造物に基づいて―」(『日本海史編纂事務局編『日本海地域の歴史と文化』文研出版、一九七九年)









軒周りの 荘厳	 <p>日輪・月輪と飛雲、板墓股、梁下の束の間に飛天 京極高次廟 (米原市清滝寺)</p>	 <p>飛天 (彩色)、斗と墓股、牡丹花葉 (彩色) 蓮乗院廟 (京都市本満寺)</p>	
	 <p>飛天、墓股、植物葉、束の左右に蓮華と唐草文様 春香院廟 (金沢市野田山墓地)</p>	 <p>斗・墓股と笈形の組合せ、中央束の左右に飛天 公広院廟 (松前町法幢寺松前家墓所)</p>	
	 <p>墓股、虹梁に唐草文様、束の左右に飛天 樹林院廟 (松前町旧寿養寺墓地)</p>	 <p>墓股、束の左右に飛天 (照り屋根型切妻造平入構造) 慈照院廟 (金沢市慈雲寺)</p>	
扉の荘厳	 <p>蓮華花葉と水流 (蓮花に塗色) 春香院廟 (金沢市 野田山墓地)</p>	 <p>日輪・飛雲、蓮華、天蓋・瓔珞、梵字など 天徳寺・龍翔院廟 (京都市春光院)</p>	 <p>蓮華花葉 高德院・瑞龍院廟 (七尾市 長齡寺)</p>

越前式荘厳例一覽(2)

<p>外壁の荘厳 ・前面扉の 左右壁 ・左右壁 ・背面壁</p>	 <p>毘沙門天(左前) 不動明王(右前) 瑞龍院廟(高岡市瑞龍寺)</p>	 <p>蓮華花葉(扉左右壁) 土屋左馬助廟(大野市善導寺)</p>	 <p>蓮華花葉と水流陰刻(側壁) 照光院廟(金沢市慈雲寺)</p>
	 <p>左右端向拝の柱、中央扉桐紋、扉左右に毘沙門天、 不動明王と二童子 浄光院廟(高野山 奥の院)</p>	 <p>背面外壁の阿弥陀如来と菩薩(左勢至・右観音菩薩) 浄光院廟(高野山 奥の院)</p>	
	 <p>中央 阿弥陀如来 (飛雲に乗る) 右下 観音菩薩 左下 勢至菩薩</p> <p>背面外壁の仏像群(部分) 長勝院廟(高野山 奥の院)</p>	 <p>卒塔婆型四十九院(前面左右一部と両側面・背面) 天徳寺・龍翔院廟(京都市 春光院)</p>	
	 <p>来迎菩薩像(側壁面) 春香院廟(金沢市 野田山)</p>	 <p>来迎菩薩像(側壁面) 瑞龍院廟(高岡市 瑞龍寺)</p>	

越前式荘厳例一覧(3)

三井 越前式石廟の形式と地方進出について

内壁の荘厳 (仏像)	 <p>十三仏像(部分) 開山堂(坂井市 滝谷寺)</p>	 <p>六地藏(部分) 石廟は倒壊 宝篋印塔を安置(松前町 法幢寺)</p>	
	 <p>観音・勢至菩薩立像 柴田勝次廟(高島市 幡岳寺)</p>	 <p>合掌仏坐像(部分) 蓮乗院廟(京都市 本満寺)</p>	
内壁の荘厳 (描画)	 <p>蓮華花葉 慈照院廟(金沢市 慈雲寺)</p>	 <p>蓮華花葉 超岳院廟(越前市 正覚寺)</p>	 <p>蓮華花葉 蓮乗院廟(京都市 本満寺)</p>
	 <p>蓮花と唐草文様(敷居)、植物紋(束)、格狭間(羽目板) 慈照院廟(金沢市 慈雲寺)</p>	 <p>格狭間(羽目板)一部分 蓮乗院廟(京都市 本満寺)</p>	

資料2

越前式石廟の進出先別、年代別所在統計

(基)

和暦(年)	西暦(年)	関西地方	福井県	石川県	富山県	新潟県	北海道	計
天文9 - 天文18	1540 - 1549							0
天文19 - 永禄2	1550 - 1559		極楽寺1					1
永禄3 - 永禄12	1560 - 1569							0
元亀元 - 天正7	1570 - 1579		滝谷寺1					1
天正8 - 天正17	1580 - 1589							0
天正18 - 慶長4	1590 - 1599							0
慶長5 - 慶長14	1600 - 1609	高野山2 春光院1、清滝寺1	善導寺1 正覚寺1					6
慶長15 - 元和5	1610 - 1619			野田山3 長齢寺1	瑞龍寺5	大安寺1		10
元和6 - 寛永6	1620 - 1629	本満寺1		野田山3 慈雲寺1				5
寛永7 - 寛永16	1630 - 1639							0
寛永17 - 慶安2	1640 - 1649			野田山1 慈雲寺3			光善寺1、寿養寺1 松前家墓所2	8
慶安3 - 万治2	1650 - 1659						松前家墓所1	1
万治3 - 寛文9	1660 - 1669		朝倉屋敷1				光善寺1、法源寺1 松前家墓所2	5
寛文10 - 延宝7	1670 - 1679							0
延宝8 - 元禄2	1680 - 1689							0
元禄3 - 元禄12	1690 - 1699						松前家墓所1	1
元禄13 - 宝永6	1700 - 1709							0
宝永7 - 享保4	1710 - 1719							0
享保5 - 享保14	1720 - 1729							0
享保15 - 元文4	1730 - 1739							0
元文5 - 寛延2	1740 - 1749						松前家墓所2	2
寛延3 - 宝暦9	1750 - 1759						松前家墓所1	1
宝暦10 - 明和6	1760 - 1769						松前家墓所1	1
明和7 - 安永8	1770 - 1779							0
①在紀年銘計		5	5	12	5	1	14	42
②その他所在数(紀年銘不詳など)		1	0	0	0	0	4	5
③合計		6	5	12	5	1	18	47
目録(資料3)掲載件数		6	8	22	5	1	18	60

備考1 本文で越戸峠の石龕(勝山市)、日吉神社の石龕(福井市)など数例とりあげたが、本統計は石廟のみとし、石龕は含めない。

2 過去に存在していたが、現存しない廟および近年更新または追補された廟は含めない。ただし、資料三には記録として記載した。

3 石廟の造立紀年銘について

(1) 石廟に紀年銘が記されている場合はその紀年銘とした。

(2) 石廟に紀年銘がない場合、収蔵されている墓碑類に記されている紀年銘とした。複数の石塔が安置されている場合は、原則最新の紀年銘によることにした。

(3) 後年墓碑と石廟が造立された遺品は、造立時の紀年銘(史料にもとづく推定を含む)によった。

資料3

各地の石龕と石廟の目録

NO	所在地 市町村	名称 寸法 (cm) (RL-FB-H)	紀年銘 (西暦)	収納物の 種類	屋根の 型式	各部の荘厳型式	銘文ほか特記事項
和歌山県							
1	高野山 和歌山県 高野町	浄光院 (結城秀康) 345-224-396 (FL)	慶長 12 (1607)	宝篋印塔 5基	入母屋造 正面唐破 風付屋根	屋根：石瓦葺き、 外壁：阿弥陀如来と24菩薩像 前面：扉左右に各2仏像 内壁：梵字と四十九院を彫刻	・石廟は松平忠直の建立 ・石大工與左衛門 ・昭和40年国指定重文
2	高野山 和歌山県 高野町	長勝院 (結城秀康母) 278-222-356 (FL)	慶長 9 (1604)	宝篋印塔 2基 五輪塔 1基	切妻造 妻入	屋根：石瓦葺き、 外壁：阿弥陀如来と24菩薩像 前面：毘沙門天と不動明王立像 内壁：梵字と四十九院を陰刻	前面柱 「三河國千鯉鮒住為藤原女君 逆襲」 「施主越前太守建立之慶長九年…」 ・昭和40年国指定重文
京都府							
1	本満寺 京都市 寺町	蓮乗院 (結城秀康室) 133-103-265	元和 7 (1621)	越前式 宝篋印塔	切妻造 平入	左右妻部：斗、幕股、牡丹（彩色） 左右に飛天 内壁：仏像6体 基礎前面（2区画）：格狭間	宝篋印塔基礎に 「元和七年辛酉 / 蓮乗院殿妙 撤尊儀 / 七月二十九日」 秀康没後烏丸光広に再嫁
2	春光院 京都市 京山区	天徳寺 (堀尾泰晴) 龍翔院（同室） 101-83.2-137	慶長 4 (1599) 慶長 12 (1607)	来待石製 宝篋印塔	切妻造 平入 照り屋根	外壁：卒塔婆型の四十九院 扉：天蓋・環珞、種子（キリーク）、 日輪・飛雲、蓮華花葉	泰晴塔の基礎の銘 「天徳寺□□□ / 世宗大□□□」 泰晴の法名は、 「天徳寺殿高菴世崇大居士」
滋賀県							
1	清滝寺 (徳源院) 米原市 山東町	泰雲院 (京極高次) 180-180-244	慶長 14 (1609)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	前面妻部：幕股、日輪・三日月 飛雲、および飛天。 扉の左右：毘沙門天、不動明王、 扉下の羽目板：格狭間	宝篋印塔基礎に 「慶長十四己辰歳 / 泰雲院殿前三品相公徹宗道 開大居士神儀 / 五月三日」 ・昭和7年国指定史跡
2	幡岳寺 (高島市マ キノ町)	宗叟善智 (柴田勝次) 82.3-65.8-127 (FL)	元和 年間 (推定)	越前式 宝篋印塔	切妻造 平入 照り屋根	棟石なし 内壁背面：菩薩立像二体 (左：観音菩薩、右勢至菩薩)	基礎に 「…… / 宗叟善智大禪定門 / □ (八) 月廿一日」
福井県							
1	極楽寺 小浜市	真明（開山） 97.5-97-200	天文 22 (1553)	五輪塔	宝形造	特になし	右「奉造立□石塔當寺開基為 一頼真明大法師□也」 左「右本廟者□林禪門□結縁 志合造之者也」 「天文廿二癸丑年正月十九日 敬白」
*2	日吉 神社 福井市 重立町	日吉神社石龕 200-150-240	弘治 2 (1556)	石仏	切妻造 平入 照り屋根	前面左右に向拝柱 棟石左右先端に石鬼	右柱「(キヤ) 弘治二年丙辰九 月廿日□□作石宮」 左柱「朝倉大炊助景賢」
*3	越戸峠 勝山市 野向町	越戸峠石龕 48-49.5-84 棟石なし	永禄 6 (1563)	石仏 (地藏)	切妻造 平入 照り屋根	正面扉下に獅子または狛犬一對の 浮彫り	右柱「永禄六年」左柱「閏三 月吉日」
4	滝谷寺 坂井市 三国町	開山堂 276-183-235	元亀 3 (1572)	開山・4世 像と墓碑	切妻造 平入	内壁：13 仏を浮き彫り 龕廻り；玉垣型の四十九院	内部背面の柱の銘文 「元亀三年九月□□」 ・昭和49年福井県指定
*5	神明社 鯖江市 水落町	神符納龕 135-135-250 (FL)	文禄 2 (1593)	神符	特殊	正面軒下左右に雲形座を配した 日輪と三日月を彫る	右柱「文禄二癸巳二月晦日府中勤 進帳納重建之」 左柱「當社神明神主九郎左衛門尉 藤原朝臣守経（花押）」ほか ・平成19年福井県指定
6	朝倉氏 屋敷跡 福井市城 戸ノ内町	松雲院 (朝倉義景) 84-84-183	天正元 (1573) 義景没年 寛文 3 (1663) 廟造立年	越前式 宝篋印塔	向唐門造	屋根は一石造り 前面破風の下：三つ盛木瓜紋 左右扉前面：桐紋様	廟背面「火圓山心月現住□堂 玄養叟唐書之 / 霜寛 文三癸卯 / 八月念日」 宝篋印塔基礎 「天正元癸卯年 / 松雲院殿大 球宗光大居士 / 八月廿日」
7	正覚寺 越前市 京町	超岳院 (本多吉松) 127-133-195	慶長 14 (1609)	越前式 宝篋印塔	入母屋造 妻入	内壁：蓮華花葉を描画	宝篋印塔基礎 「慶長十四年 / 超岳院月照光雲 童子 / 己酉正月三日」 ・昭和58年越前市指定

各地の石龕と石廟の目録

NO	所在地 市町村	名称 寸法 (cm) (RL-FB-H)	紀年銘 (西暦)	収納物の 種類	屋根の 型式	各部の荘厳型式	銘文ほか特記事項
福井県 (続)							
8	善導寺 大野市 錦町	高岳宗心 (土屋正明) 88-84.5-177	慶長 13 (1608)	越前式 宝篋印塔	切妻造 平入 照り屋根	正面左右壁：蓮華花葉 右軒下：飛天像を陰刻	宝篋印塔基礎 「慶長十三戊申 / 高岳宗心居 士神儀 / 卯月十一日」 ・昭和 33 年大野市指定
石川県							
1	野田山 金沢市 野田町	一陽院 (村井長次) 123-103-183	慶長 18 (1613)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入 照り屋根	左右扉遺失 前面扉左右壁：蓮華花葉彫刻	宝篋印塔基礎 (村井長頼の嫡子) 「干時慶長十八丑年 / 地好岩 崇雪居士 / 霜月初七日」
*2	同	清妙院 (篠原秀貞室) 85-86-168	慶長 19 (1614)	越前式 五輪塔	切妻造 妻入	特別の荘厳なし、後補の石廟 収蔵している五輪塔共笏谷石を 使用していない	宝篋印塔基礎 (前田利家女 保智) 「干時慶長十九甲寅年 / 為華 夢貞香大姉 / 八月初五日」 ・平成 21 年国指定史跡
3	同	瑞祥院 (中川光重) 瑞雲院 (同上室) (FL) 121-103-180	慶長 8 (1603) 慶長 19 (1614)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入 照り屋根	左右扉遺失 扉左右壁：地藏立蔵を彫刻 軒下：雲型座を伴う日輪と三日月 を彫刻。	瑞祥院宝篋印塔基礎 「慶長十九年 / 瑞祥院殿茂庵宗 繁居士 / 十一月廿一日」 瑞雲院宝篋印塔基礎 前田利家女 董 「慶長八年 / 瑞雲印殿顔貞芳 大姉 / 十一月廿九日」
4	同	春桂院 (前田長種室) 128-117-247	元和 2 (1616)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	扉左右壁：毘沙門天と不動明 像、扉表：蓮華花葉と水流 軒下に龕股、その左右に雲形座 を配した日・月輪を彫刻 廟内壁背面に観音・勢至立像	宝篋印塔基礎 (前田利家女 幸) 「□元和二年丙辰 / 為春桂院 殿月照利厚大姉 / 卯月十八日」 ・平成 21 年国指定史跡
5	同	清雲院 (奥村栄明) 128-118-242	元和 6 (1620)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	扉左右壁：地藏と不動明王立像 扉表：蓮華花葉と水流 軒下：龕股、その左右に飛天。 廟内壁背面に観音・勢至立像	宝篋印塔基礎 「□元和六庚申年 / 意 清雲 殿照嶺永秋居士 / 五月廿日」 ・平成 21 年国指定史跡
6	同	江月院 (前田利貞) 133-116-247	元和 6 (1620)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	扉左右壁：毘沙門天と不動明王 扉表：蓮華花葉と水流、 軒下：龕股、その左右に飛天 廟内壁背面に観音・勢至立像	宝篋印塔基礎 「干時元和六庚申年 / 意為江月院 殿照嶺永秋居士 / 八月初二日」 ・平成 21 年国指定史跡
7	同	棧蔵院 (村井長家室) 114-104-230	元和 9 (1623)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	扉左右壁：不動明王と地藏立像 扉表：蓮華花葉と水流 軒下に龕股 廟内壁背面に観音・勢至立像	宝篋印塔基礎 「干時元和九癸亥年 / 地 棧 蔵院殿花庭秀権大□ (姉) / 六月初七日」
8	同	春香院 (村井長次室) 209-178-316	寛永 18 (1641)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	扉左右壁に毘沙門天と不動明王 扉表：蓮華花葉と水流 軒下：龕股、植物葉、左右に飛天 外壁：20 菩薩、廟内壁に 2 菩薩	宝篋印塔基礎前田利家女 千世 「寛永十八辛巳年 / 地为春香院 殿梅室昌薫大姉 / 霜月廿日」 ・平成 21 年国指定史跡
9	慈雲寺 金沢市 東山	了瑞院 (富田重康) 129-109-156 (FL)	寛永 20 (1643)	越前式 宝篋印塔	切妻造 平入 照り屋根	越前式であるが、石質は笏谷石 (印塔も) ではない 屋根は戸室石で補修	宝篋印塔 銘文解説不能 寺の資料によると了瑞院廟とされている。 重康は寛永二十年八月二十二日没、 法名は 了瑞院殿性月円見日静居士
10	同	慈雲院 (富田重政) 129-109-190 (FL)	寛永 2 (1625)	越前式 宝篋印塔	切妻造 平入 照り屋根	前扉下羽目板に飛雲座 前屋根は戸室石製で補追 本廟前に笏谷石製四角型灯籠 (寛永二年銘) がある。	宝篋印塔基礎 「(寛永二乙丑) / 慈雲院殿 (前 越州日恵) 居士 / 卯月中□九日」
11	同	慈照院 (奥村栄政室) 133-110-191 (FL)	寛永 17 (1640)	越前式 宝篋印塔	切妻造 平入 照り屋根	扉左右壁：蓮華花葉と流水、 扉表-蓮華花葉と水流、裏に題目 軒下に龕股、その左右に飛天、 扉下の羽目板に格狭間を彫る。	宝篋印塔基礎 富田重政女 「干時寛永第拾七庚辰 / 慈照院殿 嶺月妙光大姉 / 初秋下旬九日」
12	同	照光院 (奥村栄政女) 133-110-197 (FL)	正保 3 (1646)	越前式 宝篋印塔	切妻造 平入 照り屋根	扉左右壁、側壁：蓮華花葉と流水 表扉：蓮華花葉・水流、裏扉：題 目軒下束左右：飛天、 扉下羽目板：格狭間を彫る。 内壁：彩色の蓮華花葉を描く。	宝篋印塔基礎 奥村栄政女 「正保三年 / 照光院殿久月妙 楽大姉 / 卯月二日」
*13	宝円寺 金沢市 宝町	高德院 (前田利家) 88-85-138	慶長 4 (1599)	石碑	切妻造 妻入	石廟は同じものが 2 基並ぶ 前面の扉は格子戸、外面に特別 の荘厳は施されていない。 明治になって再建された廟	石碑 (笏谷石ではない) 利家の官位、法名、没年を刻 んだ石塔 「慶長四歳・贈従一位高德院・ 閏三月三日」

各地の石龕と石廟の目録

NO	所在地 市町村	名称 寸法 (cm) (RL-FB-H)	紀年銘 (西暦)	収納物の 種類	屋根の 型式	各部の荘厳型式	銘文ほか特記事項
石川県 (続)							
*14	手向神社 津幡町	神殿 (五社権現の一社) 278-277-270 床下端まで(約)	慶長 19 (1614)	不動明王 手向神 (須佐男之命・ 応神天皇)	切妻造 平入 前面に 向拝	左右側面は、棟木や虹梁を葺股 で支える。屋根は鍔葺き	前田利長病氣平癒のため利常 による寄進とされる。 銘文は未確認(銘は説明板による) ・平成 10 年津幡町指定
*15	五社権現 津幡町	五社権現石龕 77-53-133 64-46-119 63-46-117 62-45-118	延宝 5 (1677) 4 社中最 大の石龕 に刻む	八幡大菩薩 秋葉権現 白山権現 蔵王権現	切妻造 平入 照り屋根	特別の荘厳なし 当初は、全基笏谷石製であった。 修理により金沢の戸室石が多く 使用されている。	前田綱紀が 4 社寄進、内現狀 1 社背面につぎの銘文を刻む 「延宝五年 / 四社建立 / 松平加賀守綱利公 / 九月八日」 五社のうち一社は手向神社 (No14) ・平成 10 年津幡町指定
*16	妙成寺 羽咋市	壽福院 (前田利常母)	寛永 8 (1631)	笠塔婆	切妻造 妻入	扉外側左に地藏、右に観音立蔵 棟柱下に葺股	銘文は解説困難 もとは笏谷石製の越前式石廟で あったが、昭和 47 年更新された 更新部分は笏谷石に非ず。 基礎部分は旧廟の笏谷石を残す
*17	同	浩妙院 (前田利常女)	寛永 7 (1630)	笠塔婆	切妻造 妻入		
18	長齡寺 七尾市	高德院 (前田利家) 瑞龍院 (前田利長) 133-100-230	慶長 4 (1599) 慶長 19 (1614)	越前式 宝篋印塔	切妻造 平入 照り屋根	軒下:「梅鉢紋」、 扉:蓮華花葉 扉下の羽目板:格狭間を彫る	宝篋印塔基礎(笏谷石)に刻銘 高德院「慶長四己亥歳 / 高德院殿前亞相 贈従一位桃雲浄見大居士 / 三月三日」 瑞龍院「慶長十九甲寅歳 / 瑞龍院殿 前黄門従三位聖山英賢大居士 / 五月廿四日」
*19	野田山 金沢市 野田町	高德院 (前田利家)	慶長 4 (1599)	不詳	切妻造 妻入 照り屋根	No19 ~ 22 は、明治 7 年前田家 が仏教から神道へ改宗の際撤去 され、実物は存在せず。 成巽閣所蔵の「石廟図」による。 本廟に特別の荘厳は見られない	石廟前右「岬慶長四己亥 / 為桃雲浄見 大居士者也」 前左「奉造立施主 篠原出羽守 / 閏三月三日」 (寛政十一年の地震で破損、篠原子孫が補修)
*20	同	芳春院 (利家室)	元和 3 (1617)	不詳	切妻造 妻入	左右壁:毘沙門天と不動	銘文は不詳
*21	同	瑞龍院 (前田利長)	慶長 19 (1614)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	扉左右壁:毘沙門天と不動明王 軒下:葺股、その左右に飛天 外壁に「十六羅漢」と記す 廟内壁は不詳(情報なし)	石廟石柱「為瑞龍院殿権大納言聖山 英賢大居士者也」 左柱「于時慶長十九甲寅季黃梅念日」 宝篋印塔基礎(笏谷石) 「慶長十九甲寅年 / 為奉齋権大納言 聖山英賢大居士 / 黃梅念日」
*22	同	玉泉院 (利長室)	元和 9 (1623)	不詳	切妻造 妻入	扉左右壁:毘沙門天と不動明王 軒下:葺股、その左右に飛天 外壁に「十六羅漢」と記す 廟内壁は不詳(情報なし)	石廟石柱「深入禪見十方佛」 左柱「深固幽遠無人能嘗」
富山県							
1	瑞龍寺 高岡市	高德院 (前田利家) 182-184-330	慶長 4 (1599) 備考 3 (4) 参照	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	棟(木製)を斗と板葺股で受ける 他に特別な荘厳なし No 1 ~ 4 の構造、荘厳は同じ No1、2、4 は寸法がほぼ同じ	宝篋印塔基礎 「慶長四己亥年 / 高德院殿桃雲浄見 大居士 / 閏三月初三日」 ・昭和 45 年富山県指定
2	同	總見院 (織田信長) 181-178-306	天正 10 (1582) 備考 3 (4) 参照	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	同上	宝篋印塔基礎 「天正十壬午年 / 総見院殿嚴浄安 大居士 / 六月初二日」 ・昭和 45 年富山県指定
3	同	正覚院 (信長側室) 109-109-206	備考 3 (4) 参照	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	同上	確認不能 ・昭和 45 年富山県指定
4	同	大雲院 (織田信忠) 185-180-302	天正 10 (1582) 備考 3 (4) 参照	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	同上	宝篋印塔基礎 「天正十壬午年 / 大雲院殿仙巖源洞 大居士 / 六月初二日」 ・昭和 45 年富山県指定
5	同	瑞龍院 (前田利長) 206-184-336	慶長 19 (1614)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	扉左右壁に毘沙門天と不動明王 扉浦:蓮華花葉と水流 軒下:葺皮下に牡丹花葉、左右に飛天を彫る。 虹梁の下に蓮華花葉 外壁 3 面に阿彌陀如来と 24 菩薩来迎像浮彫	宝篋印塔基礎 「慶長十九甲寅年 / 瑞龍院殿聖山英賢大居士 / 五月廿四日」 ・昭和 45 年富山県指定

各地の石龕と石廟の目録

NO	所在地 市町村	名称 寸法 (cm) (RL-FB-H)	紀年銘 (西暦)	収納物の 種類	屋根の 型式	各部の荘厳型式	銘文ほか特記事項
新潟県							
1	大安寺 佐渡市 相川町	大久保長安 (逆修) 200-115-193	慶長 16 (1611)	越前式 宝篋印塔	切妻造 平入	後内壁に仏立像2体浮彫り 左右壁は他の石材で補修	宝篋印塔基礎(長安の没年は慶長18年) 「大久保石見守長安 / 逆修 / 大安寺・(法名?)・ / 干時慶長拾六支六□□□」 ・平成6年国指定史跡
北海道							
1	松前家墓所 北海道 松前町	公広院 (7世公広) 184-213-240	寛永 18 (1641)	五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、飛天、 内壁に卒塔婆型四十九院を陰刻	五輪塔地輪 「寛永十八辛巳年 / 公廣院殿漢雲宗愚 大居士 / 七月八日」 ・昭和56年国指定史跡(松前家墓所全域)
2	同	氏広院 (8世氏広) 164-186-243	慶安元 (1648)	五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、飛天	五輪塔地輪 「慶安元戊子年 / 氏廣院殿直真宗性 大居士 / 八月廿五日」 ・昭和56年国指定史跡
3	同	溪香院 (7世後室藤姫) 100-82-165	明暦 3 (1657)	五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、飛天 内壁に四十九院銘を陰刻	五輪塔地輪 「明暦三丁酉年 / 溪香院殿明室久光 大姉 / 四月十三日」 ・昭和56年国指定史跡
4	同	正全院 (9世高広) 159-182-234 (FL上)	寛文 5 (1665)	五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、飛天	五輪塔地輪 「寛文五乙巳年 / 正全院殿感眞理英 大居士 / 七月五日」 ・昭和56年国指定史跡
5	同	高嶽院 (9世室高姫) 128-121-189	寛文 5 (1665)	五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、飛天	五輪塔地輪 「寛文五乙巳年 / 高嶽院殿玉廉貞深 大姉 / 六月十一日」 ・昭和56年国指定史跡
6	同	清涼院 (8世室清姫) 94-77-167	元禄 9 (1696)	五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、飛天 内壁に四十九院陰刻	五輪塔地輪 「元禄九丙子年 / 清涼院殿玉室宗瑞 大姉 / 九月八日」 ・昭和56年国指定史跡
7	同	邦広院 (11世邦広)	寛保 3 (1743)	五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、飛天 内壁に四十九院銘を陰刻	五輪塔地輪 「寛保三癸亥年 / 邦廣院殿傑藏常英 大居士 / 四月八日」 ・昭和56年国指定史跡
8	同	光壽院 (10世後室安姫) 91-79-171	延享 3 (1746)	五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、牡丹花葉	五輪塔地輪 「延享三丙寅年 / 光壽院殿瑞鳳貞祥 大姉 / 四月廿七日」 ・昭和56年国指定史跡
9	同	超世院 (12世室弁姫) 116-99-174	宝暦 4 (1754)	五輪塔	切妻造 妻入	戸室石と笏谷石組合せ廟 後日修理・造立と推定、荘厳なし	五輪塔地輪 「宝暦四甲戌年 / 超世院殿瑞譽正意 大姉 / 正月廿七日」 ・昭和56年国指定史跡
10	同	祥雲院 (12世資広) 121-109-192	明和 2 (1765)	五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、梁に飛天 内壁に四十九院銘を陰刻	五輪塔地輪 「明和乙酉年 / 祥雲院殿嶽英麟 大居士 / 三月十九日」 ・昭和56年国指定史跡
11	同	不詳	不詳	五輪塔	切妻造 平入 照り屋根	荘厳なし	松嶺院(盛広室椿姫)廟隣に所在 詳細不詳 ・昭和56年国指定史跡
12	光善寺 北海道 松前町	清久 96-82- 屋根なし	寛永 17 (1640)	越前式 宝篋印塔	切妻造 妻入	前面軒下に飛天、扉下の羽目板 に蓮華座を陰刻 後壁破損、屋根落下	宝篋印塔基礎 「寛永十七□□年 / 清久□□□□位 / 正月十八日」
13	同	根誉妙善 82-106- 屋根なし	寛文 4 (1664)	一石 五輪塔	切妻造 平入 照り屋根	前面軒下に飛天	一石五輪塔地輪 「寛文四甲辰年 / 地 根誉妙善信女 / 正月十四日」
14	法源寺 北海道 松前町	法源寺石廟 1 秀性院 88.8-65.5- 未	正保 2 (1645)	一石 五輪塔	切妻造 平入 照り屋根	特になし	一石五輪塔地輪 「正保乙酉年 / 透性院録山長前覚士 / 九月十日」
15	同	法源寺石廟 2 未調査	不詳 (未調査)	一石 五輪塔	切妻造 平入 照り屋根	特になし	未調査本堂後の墓地に所在

各地の石龕と石廟の目録

NO	所在地 市町村	名称 寸法 (cm) (RL-FB-H)	紀年銘 (西暦)	収納物の 種類	屋根の 型式	各部の荘厳型式	銘文ほか特記事項
北海道 (続)							
16	寿養寺 北海道 松前町	寿養寺石廟(左) 106.0-86.0- 屋根破損	不詳 (未調査)	一石 五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、飛天	未調査
17	同	寿養寺石廟(中) 倒壊・未調査	不詳 (未調査)	一石 五輪塔	切妻造 平入 照り屋根	内壁に仏立像を浮彫り	未調査、倒壊して各部の遺品 バラバラになっている
18	同	寿養寺石廟(右) 樹林院 99.5-86.0- 屋根破損	明暦 4 (1658)	一石 五輪塔	切妻造 妻入	前面軒下に墓股、飛天 内壁に (9) 仏坐像を浮彫り	銘文 一石五輪塔地輪に 〔松前町史〕説編第1巻上 478頁から 〔明暦四年 / (樹林院殿) 茂嶽宗繁居士 / 四月十三日〕 松前藩家老嶋崎友広廟

備考

- 表中、No 欄の「*印」を付した石龕および石廟は資料2 越前式石廟の進出先別・年代別所在統計には含まない。
- 石廟の寸法は参考として記載した。
 - RL (左右) と FB (前後) 寸法：注記なき場合は龕または廟部の箱部の寸法 (屋根、長押の寸法ではない)
 - H (高さ) は屋根の頂点までの寸法、注記なき場合は基礎などを含み、注記「FL」は基礎上端からの寸法を示す。
 - 寸法は現地調査のほか、一部下記の資料を参考にした。
 - ・金沢市埋蔵文化財センター編『野田山・加賀藩主前田家墓所調査報告書』(金沢市、二〇〇八年)
 - ・松前町教育委員会編『史跡松前藩主松前家墓所保存修理工事報告書』(松前町、一九九〇年)
- 個別資料について
 - 複数の墓碑が収納されている場合は、最も新しい紀年銘の墓碑銘による。(京都 No 2、石川県 No 3、No18)
 - 朝倉屋敷所在の松雲院廟 (福井市) は、石廟の背面に造立紀年銘があり、この銘による。(福井県 No 6)
 - 宝円寺 (金沢市) の前田利家の官位、法名、没年が彫られた石塔 (笏谷石ではない) が収納している石廟は、明治期に再建されたもの。統計に含めない。(石川県 No13)
 - 瑞龍寺 (高岡市) の5基中利長廟を除く4廟は、諸説があるが、史料『越中国高岡瑞龍記』(寛政11年富田景周著) に瑞龍寺の前身であった法圓寺の時代「慶長18年に建つ」とある。利長が富山へ移った慶長10年から18年までのいずれかの年に造立された可能性もあるが、本資料では前田利家、織田信長、同室、同信忠廟は慶長18年、利長廟は慶長19年として扱ったこととした。(富山県 No 1~5)
 - 寿養寺墓地 (松前町) の3廟は貴重な遺品、内壁の状況、収容石塔の紀年銘など詳細確認は未完。(北海道 No16~18)